



時事評論家 増田俊男

Changing political pictures in the world

変わる世界の政治地図

(本文は海外向け Straight from shoulder の原稿)

米大統領選挙中私は「米大統領は米国の政治・経済指針を決める者が決めるもので国民が決めるものではない」と述べてきた。そして従来からの指針であった国際安全保障体制維持(軍事・経済覇権・世界の警察官)、自由貿易(TPP や NAFTA)、グローバル主義(国境なきカネ・人・モノ・情報)に追従するクリントンを廃し、保守主義、一国主義、関税・保護貿易、鎖国・排他主義の指針をトランプに託した。

「平和とは単なる幻想、次なる戦争の為の準備である」。

オバマ政権は本来ブッシュ中東戦争の後始末と 2017 年からの新たな中東戦争の準備政権であった。ブッシュ政権はアフガンのタリバン(イスラム)政権とサダム・フセイン(イラク)政権を倒した後の軍事空白を埋める為 2005 年イラク北部に英国と共に ISIS 設立を支援、イスラエル(モサド)の軍指揮官と CIA が洗脳、訓練したイラク軍将校を送り込み米国が壊滅を標榜するアサド政権(シリア)と戦わせることで ISIS への資金・軍事支援を正当化した。

米国からの支援で ISIS は中東における巨大な軍事勢力となり、ISIS に対して表面上敵対するが裏で支援するサウジ中心勢力や表裏で対立するシリアやイラン中心勢力が入り乱れる中で対 ISIS 戦争が中東戦争後の軍事空白を埋めてきたことは紛れもない事実である。米国では中東から米軍完全撤退を望む勢力(リベラル)と軍事介入継続勢力(保守)が対立してきたが今回の大統領選で保守に決めた。トランプはプーチン大統領と二度にわたって電話会談をし、オバマ大統領を飛び越えて米国・ロシア・トルコで ISIS 撃滅共同歩調の約束をした。

これは今まで米国が掲げてきたアサド政権(シリア)打倒の取り下げであり、事実上米国・ロシア(イラン)・トルコ・シリアによる対 ISIS 体制を意味し、今後米国が中東を撤退すれば中東はイラン・シリア(ロシア支援)シーア派連合とサウジ・米国支援のスニ派有志連合の対立に迫られる。

オバマ政権も ISIS も今や次なる新たな中東戦争準備の為十分な役割を果たし閉幕の時が来た。

2001 年 9 月 11 日(セプテンバー・イレブン)による大暴落後 2002 年から中東戦争が始まり 2007 年まで世界中の株価はうなぎ登りとなった。

本年の暴落後 2017 年から 2020 年までにニッケイ 28,500 円になる！

「歴史は繰り返す」。

増田俊男の「時事直言」協賛金のお願い！

現在、増田俊男「時事直言」協賛金受付中です。サポーターの皆様(2 口以上)には 2017 年に政治でも経済でも益々読者の皆様のお役に立てる特別レポートを贈呈します。1 口 ¥3,000-。お問合わせ、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社(Tel : 03-3956-8888、HP : www.chokugen.com)まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社(FAX : 03-3956-1313)までお知らせ下さい。